

勿凝学問 218

足りないのはアイデアではなく財源である
財源の裏付けなき社会保障の会議など、ガス抜きの意味しかなし

2009年1月23日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

「権丈先生は、昨年は、社会保障国民会議、高齢者医療制度に関する検討会、それと社会保障審議会年金部会に参加されておりました。『週刊社会保障』による「本誌が選ぶ2008年社会保障10大ニュース」のベスト3は1位から順に

- ② 小泉構造改革から社会保障機能強化へ転換（社会保障国民会議）
- ② 高齢者医療制度見直しで有識者検討会が議論開始（高齢者医療制度に関する検討会）
- ③ 低年金・無年金対策で保険料軽減制度等検討（社会保障審議会年金部会）

でして、先生は、すべてに係わられておりました、大変ご活躍をされておりました。・・・」

こんな感じで紹介されると、ついつい次のように言いたくなってしまって、
「誰が活躍などするものか。財源の裏付けがない社会保障の会議など、ただのガス抜きの意味しかない。社会保障政策など、さして難しい理屈があるわけではなく、やらなければならないことは、当の昔に決まっている。足りないのはアイデアではなく財源である。負担増のビジョンを示さない政党や勢力が権力を握れば、社会保障論議は、完全にガス抜きのためだけの意味しかなくなる。そうなれば、すべての公務を止める。時間のムダだ」。

こう言いながら、社会保障国民会議の最後の雇用年金分科会での発言を思い出した。みんなが、能力開発が必要だ職業訓練が大切だと言って盛り上がっているときに、僕ひとり、財源の話をしはじめる（[社会保障国民会議 所得確保・保障（雇用・年金）分科会（第8回）議事要旨](#)より）。

○権丈委員 能力開発とかいうのは、皆さんもおっしゃったことなんですけれども、ものすごくお金がかかることなんです。ですから、何か先ほどからいろいろ言われているように、ものすごくお金がかかることなんだと、そして財源というものはしっかりと確保しなければいけないとかいうような文言を、何か加えていただきたいと思います。

そういう能力開発、職業訓練といえますか、例えば先ほど若年層などで、生活保護

を受けざるを得ないような人とか、いろんな話があるんですが、そこを待っているのではなくて、ヨーロッパとかだったら、道を歩いている人に職業訓練を受けたくないかと言うような、そういう能動的なことをやっていきながらやっているんです。だから、あれはものすごくお金がかかることで、そこまでやらないと余り意味がないのではないかなというのがありますので、何か財源の、皆さんもおっしゃっているんですけれども、裏づけのある形で、積極的に今後、この問題に取りかかっているんだということを示していただけるような姿勢がこの報告書の中にあれば、私としてはうれしく思います。

しばらくして、再び、みんなの話が盛り上がってきたとき、

○権丈委員 皆さんが労働の話がされていたりするときに、お金の話ばかりで申しわけないんですけれども、ここで目的を達成するとする低所得者対策、ばね板のような政策とか、能力開発政策というのは、先ほどお金がかかると言いました。目的を達成するためには、だいたいアメとムチの政策が2つある。3つ目に説得というものもあるんですけれども、そういう説得というのは余り使わないで、公共政策というのは大方いつもアメかムチの政策を使うんですが、お金を使わなかったらどうしてもムチを使わざるを得なくなるんですね。

この国はいろいろな目的を達成するため人や組織を動かそうとするときに、お金を使わないでやろうとするからムチでやってしまうんで、我々から見て非常によろしくないなという評価にならざるを得ないんですね。そして、ちゃんとお金を負担してからみんなでやったほうが本当は楽になるのになるというのがあるんですけれども、この国ではなかなか負担の側面が動かないというのがあるので、ぜひともお金の話、財源調達の話が報告書に書き加えていただきたい。

何度も言うが、この国で足りないのはアイデアではなく財源なのである。財源の裏付けのないところで、国民会議だろうが、審議会だろうが、検討会だろうが、議論しても何の訳にも立たないのである。財源調達の道筋が立たない限り、活躍などという言葉とは、腹立たしいほどに無縁。